

プロジェクト参画 医療機関・施設 あなたの町のドクターインタビュー



vol.1

vol.2

特定医療法人清和会 奥州病院



「愛・和・心・健・仁」をモットーに、
地域のニーズに適合した医療サービスを。

奥州病院は、JR 東北本線水沢駅東口側に位置する医療機関。平成 25 年 8 月に新館 5 号棟の運用を開始し、近隣の急性期医療機関の後方支援病院として、地域他医療機関と連携し、地域の医療に貢献している。また二次救急医療機関として地域の救急医療サービスも提供。他に分院である岩手クリニック一関、併設の介護老人保健施設 清和苑等の施設も有する。



お話を聞いたのは…

● 理事長兼院長 佐藤 芳邦 先生



【Q1】 貴院の特色やこだわりを教えてください。



腎センター

透析とリハビリ、機能の違う 3 つの病棟。

当院では透析とリハビリを医療サービスの 2 本の柱と決め、この柱を中心に地域のニーズに対応する医療サービスを提供しています。透析では夜間透析も実施し、働きながら透析を受けることができます。リハビリでは多種療法士が在籍し、様々なリハビリプランに対応可能です。

また、当院は機能の違う 3 つの病棟を有しています。地域包括ケア病棟は、急性期を経過した後の入院に対応した病棟。療養病棟は、慢性疾患による長期の入院に対応した病棟。そして回復期リハビリテーション病棟は、脳卒中や骨折治療後のリハビリを重点的に行い、早期の在宅復帰に対応した病棟です。これらの特色を生かし、今後とも地域医療に貢献していきたいと思っています。

【Q2】 先生が仕事をする上で普段から心がけていることは？



リハビリテーションセンター

地域に密着した、質の高い保健医療・介護を。

周辺の保健、介護、医療の各機関とも積極的に連携し、地域の皆様が日々必要とするサービスを提供すること。そして地域に真に密着し、さらに質の高い保健医療、介護の実践をめざしています。今後の僻地への医療サービス提供拡大や、救急の受け入れの充実を視野に、職員一同、「自分の家族、知人に自信を持って薦められる施設であり続ける」を合い言葉として、笑顔でサービス提供に日々励んでいます。そしてこれからも「地域の皆様に育てていただける医療法人であり続ける」ことを心がけていきます。

かつて WHO に勤務していた経験から、今の臨床現場では、予防医学の考え方が活用されていないように思います。疾病の発症を防ぐ、症状の重症化を防ぐことで「生活の質」を向上し、公的私的経済負担を軽減するために、私はぜひとも総合診療医でありたいと思っています。病める方々に必要な医療が適時適切に提供されるために、この病院の機能が地域の皆様に有効に活用されることを念じています。

【Q3】 このインタビューを見ている読者の方へのメッセージをお願いします。



管理栄養士

「食べる」ことで、「生活の質」を向上させましょう。

今日本では、社会の高齢化が問題になっています。高齢者への医療サービスの提供では、これまで以上に QOL（Quality of Life 生活の質）の向上が重要なファクターになっています。QOL を向上させるために重要なことのひとつは、意外にも毎日の「食べる」ことであるように思います。現在種々の栄養補助食品があり、その「味」は以前とは全く別物のように「おいしく」なっています。またその形態もさまざま。一人ひとりの状態に合わせ、「食べる」ことをお手伝いすることで、もっと QOL を向上させることができると思っています。

特定医療法人清和会 奥州病院

岩手県奥州市水沢区東大通り 1 丁目 5 番 30 号

TEL : 0197-25-5111

<http://www.hospital-ohshu.or.jp/>